

# 令和2年度第2回西脇市立西脇病院経営評価委員会 会議録

日 時 令和3年2月9日（火）

午後2時～3時30分

場 所 西脇病院 2階 講堂

## 1 開 会

藤井事務局次長：

委員の皆様には、大変お忙しいところ、また、緊急事態宣言発令中でありながら、御出席をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

本日は、Zoomも考えられるところですが、委員の皆様方の貴重な御意見を直接皆で共有したいということで、開かせていただきました。よろしく願いいたします。

ただ今から、令和2年度第2回西脇病院経営評価委員会を開会させていただきます。

事前に配布させていただきました資料のほか、お手元に本日の資料としまして、委員及び院内出席者の名簿と配席図を配布させていただいております。

公務の都合で遅れて、又、欠席ということがございますが、御了承願いたいと思います。

本日は、委員全員の出席でございます。

それでは、次に委員会の開催にあたりまして、片山西脇市長から、ごあいさつを申し上げます。市長、よろしく願いいたします。

## 2 市長あいさつ

片山市長：（あいさつ）

## 3 院長あいさつ

岩井院長：（あいさつ）

## 4 議 事

藤井事務局次長：

それでは、次第に基づき、「西脇市立西脇病院改革プランの推進状況」及び「西脇市立西脇病院経営基本計画（案）」について、御意見、御指導をいただきたいと思います。

飯島委員長、よろしく願いいたします。

**飯島委員長：**

それでは、議事を始めさせていただきます。資料1の令和2年度西脇市立西脇病院改革プランの推進状況について、事務局から説明をいただきたいと思います。

**長井事務局長：（資料1を説明）**

**飯島委員長：**

ありがとうございました。ただ今の御説明につきまして、御質問、御意見等、いかがでしょうか。

**長江委員：**

13ページの経営資源の強化で、いろいろな健診業務の実績があがっています。自己評価として、「C」という厳しい項目が並んでいます。これは、今年度についてはコロナの影響で、こちらの医療機関では、何日か自主的に止めていたということになかったのでしょうか。もし、あったとすると、自己評価が厳しいと思いますが、いかがでしょうか。

**宇野医事課長：**

御指摘がございました通り、一時期、人間ドックは、コロナの影響を受けまして、4月、5月に止めている時期がございました。その分が直接件数に影響が出ていると思います。

**松尾委員：**

コロナの影響は、神大附属病院では病床利用率に大きな影響を及ぼしましたが、西脇病院では相対的に小さかったと思ひ拝見いたしました。損益が、2億円の赤字になっていますが、病床利用率が計画通りであれば1億円程度は、利益が増えていたと思います。それに対して、外来は、計画とのギャップが大きかったと思います。前年度比、1日当たり50人程度外来患者数が少なくなっているのも、その影響が、多分2～3億円くらいあったと思います。外来だけの原価率はよくわかりませんが、あくまで予想ですが、それくらいの影響があったのかもしれないと思ひました。外来患者数の減少は、多分、コロナの影響による部分と、継続的に下がっている部分と、合わせてだと思ひます。外来診療は、病診連携を積極的に取り組まれていることが資料の中に書かれていたと思ひます。にもかかわらず、これだけ減っているということについて、短期的な影響として考え

ていいのか長期的に減っていくことを覚悟したほうがいいのかが評価の楽観度の分かれ目になると思いました。今回の評価については、コロナの影響が外来患者の減少に大きく影響していると思いますので、病院の努力評価という意味では、先程、意見があったような辛口というか、外部環境も少し考慮しなければいけないと思いました。ただし、病院財務への影響を考えると、中長期的に低下傾向が続いていくとインパクトが大きいだけに心配です。また、損益が2億円の赤字で済んでいるのは、費用も減っている影響があります。例えば、減価償却費が減っており、特に器具の償却が進んでいると見受けられるので、必要な更新を遅らせているのではないかとこのところが気になりました。

**飯島委員長：**

この収支状況の費用のところで、「その他」が昨年比べて倍くらいに増えていますが、これは具体的にどういうものでしょうか。コロナ関係でしょうか。

**藤井事務局次長：**

これにつきましては、国からの慰労金を特別利益で受けて、特別損失で支出するように、とございましたので、西脇病院で約1億4千万円ほどを特別利益で受けて、そのまま、その他の費用の方も上がっております。経営とは、直接関係はございません。

**飯島委員長：**

先程、健診の話も出ていましたが、成人病健診や乳児健診、妊婦健診、ここは全然、変わっていないというか、もっと影響を受けるのかなと思っていました。特に何か取組があったのでしょうか。

**藤井事務局次長：**

成人病健診は、加東市の方に企業が多くございまして、健診の枠を増やしたということがございます。院内の体制を整えまして、協会けんぽの健診を増やしたということがございます。人間ドックは、4月、5月は閉めていましたので減っています。乳児健診等々については、近隣で出産できる病院が減ったということで、西脇病院で受診されているのかなと思っております。

**飯島委員長：**

先程、松尾先生がおっしゃったことと同じ内容になりますが、外来患者さんが減っているというのは、これまでも減ってきている傾向にあったのでしょうか。

**岩井院長：**

確かにここ数年、徐々に減ってきていますが、今回は、もちろんコロナの影響は明らかにあります。それと同時に、この秋から、初診料を多くいただくようになりまして、それも公にさせていただけると、やはり開業医の先生方のところに行かれて、そこから紹介をしていただくと。紹介をしていただければ、そういう初診料の発生がありません。紹介していただいた方は、当然、ほとんど、また、お返しするという、当院に最初から初診でお越しになられた時は、長くなることもありますが、返せる方はお返しをするということで、紹介率はすごく上がっています。そういう形での外来初診が減っていますので、どうしても、今回、さらに目立ったかなというふうに思っています。

**村上委員：**

医師会ということで、地域医療の取組ということで、18ページですが、来院報告とか、入院報告とか、積極的にFAXを流していただいていることで、とても助かっています。ありがとうございます。ただ、最終報告がどうしても郵送よりも遅れてくることがあります。実際の報告の後にFAXが来ることが多いかなと思います。その辺、少し注意していただければと思います。コロナ禍で、医師会も発熱トリアージ外来に参加させていただいております。もし、できれば、どこかの項目、基本事項の3番、そういうところに医師会との取り組みを入れていただければ、我々としても記録に残るということで、非常にありがたいと思います。

**飯島委員長：**

医師会の貢献を記録が残る形に、今後していただけると、すごくマスコミでも取り上げられていますし、非常に病院そのものの宣伝効果にもなったと思いますし、経営という点では、コロナ禍ではわかりませんが、今後、すごく有益になると思います。そういう点で、非常に医師会との関係が極めていいということは、大変重要になると思います。その辺は、書いていただけるとありがたいと思います。

**藤井事務局次長：**

地域医療連携では、医師会には本当にお世話になってございます。そのところも含めて、今後、追加という形でさせていただいて、より医師会と西脇病院との連携の密というのは、全国に誇れることであるというところをもう少し全面的にアピールしていきたいと思っております。

**長江委員：**

今、医師会の会長の先生が言われたように、発熱トリアージ外来は、全国に先駆けて取り組んでいただいております。それと併せて、この2月からコロナ病床の確保ということで取り組んでいただいております。今日は、経営の話なので、少し違いかもわかりませんが、岩井先生が言われたように、短期的、長期的、どちらにとっても病院にとってプラスになるので、そういった点も何らかの形で書き込んでいただきたいと思います。医師会と病院との関係もありますが、今回のコロナ病床については、北播磨全域を考えて、加西病院であったり、そのほか、コロナ病床を持っていない医療機関との連携ということで取り組んでいただいております。経営とは少し外れるかもわかりませんが、非常に西脇病院の市立病院としての役割を果たしていただいておりますので、そのあたりも市民の方にかかるような形で示していただければと思っております。

**飯島委員長：**

今までのところをまとめてみますと、全体としては、非常によく頑張っているという印象で、大学より、はるかに状況がいいのではないかと思います。目立ったのは、やはり外来患者数の減少というところで、これはコロナの影響も非常に大きいでしょうけれども、長期的な減少傾向、やはり、今回は初診料が上がったということも影響している可能性もあるだろうという評価だったと思います。あと、健診に関しては、比較的順調で、特に妊婦健診や乳児健診が順調なのは、周辺の産科施設が減ったという影響が大きいだろうという解析だと思います。最後は、医師会との協力関係とか、コロナ病床を設置したということ、積極的にアピールしていてもいいのではないかと御意見があったと思っております。

他にございますでしょうか。

それでは、資料2 西脇市立西脇病院経営基本計画について、

事務局の方から説明をお願いいたします。

**長井事務局長：**（資料2を説明）

**飯島委員長：**

続いて、資料3 基本計画の実施計画（案）について、説明をお願いいたします。

**長井事務局長：**（資料3を説明）

**飯島委員長：**

ありがとうございました。今の説明に対しまして、御意見、御質問はございませんでしょうか。

**松尾委員：**

8ページの7番の医療安全・感染対策の強化でコロナの陽性患者の受入れもされるようになったことで、設備等の充実をさせるといったことが必要ではなかったのでしょうか。別の病院の場合は、感染対策に結構それなりの設備が必要で、運営経費も含めて予算化しておかないといけないという病院もあります。現状の予算でいけるのか、実施計画の中にそういう費用が見込まれるのであれば、ここに書き込んでおいたほうが外に出る資料だということではないかと思えます。追加費用の必要性と計画に書き込むことについて教えてください。

**伊藤副院長：**

設備に関しましては、まずは、重症病棟の一部を春先、コロナの疑い患者に対応して、病棟に簡易的な壁を造らせていただいて、しっかりとゾーニングをして対策を行っております。それから、継続して、HEPAフィルターが付いたクリーンパーテーションを院内の適材適所に置いて、感染対策をしています。先程から話題になっております、2月から4階南病棟で、コロナの陽性患者を受け入れています。4階東病棟を半分に区切るような形で、床から天井まで、簡易的な壁をしっかりと造らせていただいて、陽性者と交わらないようにゾーニングをして、しっかりと対策を取らせていただいております。

**岩井院長：**

追加になりますけれども、救急外来で、どんな方が来られる

かわからない中で、初めて来られる方がたくさんおられて、発熱の方、そういうリスクのある方も仕切ったところに入っていただけで、嚴重に管理しながら救急外来で診ています。検査機器は、ランプ法を扱っています。比較的、2時間くらいで検査ができるということで、機器を購入して、定期的に測り、夜間にも病院スタッフに測定してもらうように、ハード面、ソフト面でもそれなりにかかっていると思います。

**松尾委員：**

通常の設定更新の予算の中で、いろいろやり繰りされているのだと思いますが、実施計画の中で、感染対策の強化に取り組んでいることをきちっと書かれたほうがいいと思います。感染対策の費用を集約して計画の中に書いていただいて、次年度以降、3年度、4年度継続的に必要になるものがあれば、計画に書き込んでおかれたほうが、市立病院は、それなりの費用をかけてしっかりやっているということがわかりやすく理解してもらえらると思いますので、御検討いただければと思います。

**藤井事務局次長：**

今回のコロナに関することが、抜けているというふうに思います。コロナ対策、いろいろしております。市長が申し上げましたように、発熱トリアージ外来から始まって、今は、陽性患者の受け入れと、その間、さまざまなことをしております。看護局中心に入院前の相談のブースを設けて、入院される方のコロナ対策もしております。これらも挙げる必要がございます。経営的な観点から言いますと、このようなものはすべて補助金対応という形で考えております。

**飯島委員長：**

特にコロナの感染対策ということになると、いろんな考え方があり、非常に難しいと思います。大学では、オペで入院される方全員にPCR検査をしています。それで全部防げるとは思っていないませんが、確率的に防げるだろうということがあります。コロナは発症前の方が感染力が高いという特徴もあるので、その辺も非常に難しいと思います。オペ症例に対する対策は、取っておられますでしょうか。

**岩井院長：**

まず、入院患者さんは、オペ目的の方だけではなく、すべて

検査をしています。入院時には、ランプ法の検査か、入院まで時間がある方は外注で出しています。手術に関しては、非常にリスクがあります。お産の場合も、直前にするようにしています。手術の場合、そういう方はまだおられません。陽性の方で時間がある場合は、そういうことを積極的にやっていただいている病院に転送することにしています。

**飯島委員長：**

具体的に1日何件くらい検査をされているのでしょうか。

**市橋検査部技師長：**

10月から検査を始めましたが、当初は1日4～5件でした。今は、30～40件くらい検査をしています。入院がわかっているオペの方に関しては、時間に余裕がありますので、外注のPCR検査に出してもらっています。その分に関しては、1日4～5件あります。今、入院の方全員にランプ法の検査をしており、1日に30～40件あります。機器は追加で購入していただいておりますので、一応、時間は決めています。それ以外に臨時で何度も検査をしております。夜中にも検査をしております。

**飯島委員長：**

すばらしい対策を、取っておられると思います。大学よりもずっといいと思います。

**長井事務局長：**

今現在、市の方の事業として、妊婦さんに対して、分娩前に、ランプもしくは外注のPCR検査をしております。それと、付添いの1名の方に検査を、市の助成で開始をいたしました。現在は状況が厳しいですので、検査は行いますが、付添いの方は、どうしてもその時に限定して、念のために付き添いの方にも検査をしております。

**村上委員：**

外から西脇病院を見ると、一番最初に見るのはホームページです。昨日、西脇病院のホームページと北播磨総合医療センターのホームページを見比べましたが、西脇病院はダサいです。一般の方が情報収集するのに、まずホームページを見られると思います。かなり古い写真が載っているのと、令和元年にスマホには対応していただいたんですけども、なかなか…。なぜ、



こんなことを言うかということ、やはり患者さんに安心してきていただくためには、こちらからいろんな情報を発信したほうがいいと思います。2月からコロナ病棟開設しましたし、発熱トリアージ外来をやっていますし、まず、コロナの対策については大丈夫だということ発信していただきたい。市長から最初、お話を聞いたように、なぜ、西脇病院は体温を測らないんだと、そういうクレームが来たと言われました。北播磨総合医療センターは測っています。ただ、神戸大学は測っていません。神戸大学のQ & Aで、それは新型コロナウイルス感染症等に感染していても発熱症状ない場合もあること、感染症以外でも発熱する疾患が多数あることなどから測らないと、きちんと書いてあります。西脇病院を見ると、岩井院長が7月に、まずお家で検温してきてくださいというコメントを出されているんですけども、そんなに説明がいまいち一般の人にはわかりにくいんです。差別化というか、チャンスと言え、おかしいですが、西脇病院は、今、チャンスではないかと思います。このギャップを利用して、西脇病院は北播磨になくはならない病院なんだということを示すいい機会だと思います。その辺をもっと一般の方にホームページで広報してアピールしていただければ、我々も西脇市の開業医として、非常に喜ばしいことだと思います。よろしく願いいたします。

#### **藤井事務局次長：**

ホームページにつきましては、大変申し訳ございません。これにつきましては、以前、村上先生の方から御指摘がございまして、何とかスマホから見られる対応という形で改善したところでございますけれども、職員の中でも不評というところがございまして。改めて、見直しが必要であるのではないかというふうに考えております。見直すとなりますと、予算的なこともございまして、何らかの対応、工夫ができることをしていきたいと思っております。その辺の御意見をよろしく願いいたします。

#### **富永委員：**

市民の立場からになります。やはり、毎年お手伝いをさせていただいていた病院フェスタが去年中止になり、本当に残念だなというのが一番大きなところ。ただ、その中でも、病院の近くを通りますと、イルミネーションが去年より華やかになってきた気がします。要所要所で、ピンクリボンとかブルー

リボンとかいろいろありますが、去年よりイルミネーションが華やかだなと感じました。やはり、この暗いコロナ禍の中、病院もそういうところですよごく力を入れられているというか、少しでも明るくというところが見えて、市民である私は、すごくうれしかったです。それが、1年を振り返って思ったことです。あと、ずっと、仰っている発熱トリージ外来をされたりとか、陽性患者を受け入れられたりということ、本当に頑張っていると思うんですけども、全国では病院スタッフが疲弊されているというニュースもよく聞きますが、会議が始まる前に、村上先生に発熱トリージ外来の様子を伺っていたら、やはり患者さんの受入れの後は、看護師さんが消毒してくれてね、というお話があり、通常の医療に加えてのコロナ対策ということで、本当に医療スタッフの皆さんも大変なのではないかなというところがあります。そのあたり、中の事情はいかがでしょうか。何もできないんですけども、応援することくらいしかできませんが、気になるところでありますので、教えていただけたらと思います。

#### 小林副院長：

非常に心温まる御意見をいただきまして、感動しているところです。イルミネーションも、このように観てくださっていたんだなと。このイルミネーションも市民の方からの御寄附もあり、こちらも予算を立てながら、スタッフが多職種でどんなイルミネーションをしたら喜んでいただけるのかな、私たちも嬉しいのかなと意見を出し合って、毎年やっているところです。今年のコネプトもありましたし、そのように観ていただいたんだなというふうなことを聞きますと、非常に元気になります。先程、人はどうですかと言ってくださいました。本当に人のやりくりは大変でございます。看護局としましては、人を削り出し、配置しているところです。その発熱トリージ外来についても、どのように人を充てようかというふうな考えまして、ベテラン看護師を充てるというふうなところでは、日々の配置では、どのように削り出そうかというところです。村上先生はじめ、よくやってくれているという言葉で、今日は後ろにおります次長たちも本当に力をいただいたかなと思います。他の部署の配置においても、この全体の総人数では、なかなか発熱トリージ外来の運営、それからコロナ陽性患者さんを受け入れる病棟を立ち上げるというのは難しいと考えた時がありましたけれども、何とか、この地域でやらなければいけないというこ

ろで整理をしていったところでは、開設に向けましては、看護局だけではなく、当院のいろんなプロジェクトがあります。コロナのことは、入院受入れ、検査をどう進めるか、面会についてはどうするか、救急外来をどうするか、外来をどうするかというプロジェクトがありまして、その意見を集約して、対策本部会議をやっているところです。そのような取組みを、今回、この病院がコロナ対策で努力していることを今後どのようにしっかりやっていくかというところを、ホームページや経営評価の紙面においても書いたらいいんだよという御意見をいただきました。より力を結集して、やっていったらいいんだなということを最終的に思いました。陽性患者さん5名受け入れて、満床になっています。それについても、県民局の保健所長さん、それから保健師さんたちが非常に西脇病院のことをよくわかってくださって、どのように進めていったらいいのかということの御意見をいただきながら、進めることができいております。陽性患者さんの担当の木村先生は、今日、患者さんの状態が悪いので欠席はされていますが、病院全体でもって、やっています。看護師も少し人数が少ないところもありまして、それを次はどうやっていかないといけないかという努力をしていかなければいけませんし、先程、ホームページのこともありましたけれども、ホームページもみんな、人がないところで努力をしていくということが、力にもなると思います。事務局もやはりそれを専門にする人がございませぬ。でも、努力してよりよいホームページにしていくことが重要なことだと教えていただきました。本日の御意見を振り返りながら、たくさんの方の労力を出すのは、なかなか難しいですけれども、それが引いては大事なんだと教えられ、ものすごく、私たちに力をいただいたなと思うところです。ありがとうございます。

**飯島委員長：**

お話を聞いていると、非常に西脇病院は地域の方々に慕われていると実感いたしますし、病院のスタッフの方も、それを感じていらっしゃるんだということが、よくわかりました。非常にいいと思います。

ホームページは、業者さんが入っているんですね。

**藤井事務局次長：**

業者を入れて、メインは、病院のプロジェクトの方で作っていくという形になっています。この辺が、予算的なこともあり、

いろいろな制約があったのは確かかなと思います。その辺も含めて改善できるところは、早急に改善していかなければならないと、改めて感じたところでございます。

**岩井院長：**

今、小林副院長からも話がありましたように、当院の看護局は、すごくみんなでまとまってやってもらっています。診療局、医師の方のことを言いますと、やはりいろんなところで聞きますと、コロナ対応は内科の仕事だと。極端なことをいうと、呼吸器内科だと言われて、その辺が頑張っている病院もあると聞きます。西脇病院は、そんな人的に余裕があるところではありませんので、最初から科を越えて、いろんな科の先生と一緒に入ってもらって進めていっています。みんなしんどいですがけれども、みんな一緒にやっているという意識は非常に強いから、何とか今まで頑張ってきたと思っています。私自身も最終的な判断をする立場ですし、旗を振る役ですがけれども、院内に2か月に1回くらいは、院長としてのコメントを出させていただいて、こういうふうな思いでやっているということを出させていただいております。何とか、みんなをまとめていこうとやっているところです。みんなは、疲れてくるとは思いますがけれども、よくやってもらっています。

**飯島委員長：**

岩井先生の人柄が出ているなど、すごく思いました。

次に進ませていただきたいと思います。次期西脇病院基本構想及び経営基本計画（案）について、御説明していただきたいと思います。

**長井事務局長：**

次期西脇病院基本構想及び経営基本計画（案）につきまして、御説明を申し上げます。

「西脇市立西脇病院基本構想及び経営基本計画（案）」、「西脇市立西脇病院経営基本計画-実施計画（案）-」、「西脇市立西脇病院基本構想及び経営基本計画（案）参考資料」を配布させていただきます。

現在の経営基本計画は、平成28年度から5年間の計画であり、令和2年度が最終年度となっておりますので、令和3年度から5年間の西脇病院基本構想及び経営基本計画（案）を策定いたしました。

この計画（案）は、令和2年度までの計画を踏襲して、引き継いだ計画となっております。現在の現状から将来を見据えた地域医療等を盛り込んでおります。

また、今後、国が「新公立病院改革ガイドライン」を改定されたときには、国のガイドラインの改定内容を踏まえ、計画の見直しを図ってまいりたいと考えております。

「病院基本構想」につきましては、地域の現状と課題、病院の現状と課題について、分析・調査を行い、今後の病院の将来像を示しております。

「経営基本計画」につきましては、今までの経営基本計画に引き続き、今後の医療需要の変化に対応していくための主な取り組み内容を掲げております。

「経営基本計画-実施計画（案）-」では、経営基本計画を推進していくための具体的な取り組み内容を掲げております。前年度の実績を踏まえ、数値目標等を設定したものでございます。

以上、簡単ではございますが、基本構想及び経営基本計画（案）についての説明とさせていただきます。

#### **飯島委員長：**

今の御説明について、何か御意見、御質問はございますでしょうか。

#### **松尾委員：**

3点お尋ねします。1つは、いわゆる2025年問題、医療従事者の残業の問題があると思います。これは、どの病院もスタッフの人件費にかかわることですので、大きな問題だと思います。そういう意味で、現状で計画の中に盛り込むのは難しいと思いますけれども、現在のスタッフでどれだけの残業が発生していて、それをなくす対応をしていくためにどの程度の新たなスタッフが必要になってくるか、ある程度、予測がつくところはあると思いますので、基本計画に書き込める範囲で工夫いただければと思います。

もう1つは、病床利用率向上の問題と外来の減少傾向に基づく損益維持の問題です。病床利用率について、計画通りの90%を目指せば、1億円くらい損益がよくなるのでいいのですけれども、去年からのコロナの問題を踏まえると、高水準の病床利用率を目指すのが、果たしていいのかというのが検討課題だと思います。西脇病院の場合、今の陽性患者さんへの対応を何とか出来ているのは、病床利用率が80%台のところにあったため

だと思えます。陽性患者に対応しながら92～93%でまわすのは難しいと思えます。したがって、今回のようなことに柔軟に対応するには、ある程度余裕を持っておいたほうがいいと思えます。急に対応しなければならなかった時に、人が集まるかというところ、おそらく難しいわけです。そう考えると、コロナの問題の他にも災害の問題もありますので、そういったことを考えると、ある程度余裕があったほうがいいと思えます。その分のコストは誰が負担するのかということになってくるのですが、それは安心料だと考えると、一定の市の負担ということになります。前回、これくらいの負担金でよく頑張っているという話をさせていただいて、市長からコメントをいただいたのですが、やはり、それは、安心料として、市民が受益者として負担するという理解を得ながら、そのかわり、感染症や災害などの緊急時に柔軟に対応できる病院だと、そういうふうな考え方もあると思えますので、御検討いただければと思えます。

もう1つは、収益を増やすうえでも、強みを伸ばしていかなければならないということもあろうと思えます。その意味では、がんに対する治療が充実しているというのは西脇病院の特徴だと思えます。そこで、例えば、緩和ケアを充実させるということが強みを活かすものであるとすると、それを病床機能も含めて強化することは検討に値すると思えます。京都市立病院は、周辺に京大病院もあれば日赤病院もあり、高度急性期病院間の競争が激しい中にあります。その中で、特徴的にやっているのが緩和ケア病棟です。がんの患者さんがスムーズに面倒をみてもらえるというところを特徴にしています。そういうことを考えますと、西脇市においても非常に高度なものは、大学病院に任せられるかもしれませんが、西脇病院としては、緩和ケアを充実させることで一つの特色が出せるのであれば、初期投資のキャッシュは比較的潤沢にあると思えますので、御検討いただくのがいいと思えました。

**村上委員：**

感染症指定医療機関が検討項目にあがっていると思えますが、これは決まっている話でしょうか。

**長江委員：**

北播磨圏域の感染症指定医療機関は、加西病院が現在第二種として指定しています。年度当初だったと思えますが、加西病院から第二種の指定医療機関を返還したいという表明がござい

ました。それを健康福祉推進協議会、この圏域の医療体制を検討する会議でございますが、了承をされております。しかし、これから、感染症指定医療機関については、どの医療機関が担っていくかというのを、この3月3日に健康福祉推進協議会を予定しておりますので、そこで議論が開始になるということで、まだ、特定の医療機関は決まっておりません。

#### 藤井事務局次長：

先程、保健所長の意見もありましたように、加西病院の表明があったことを受けまして、今回、基本構想、基本計画を策定する中で、やはり感染症指定病院を考えなければならないのかなど。公立病院でありましたら、北播磨総合医療センター又は西脇病院かなというところであります。まだ、西脇病院が手を挙げるということは決まっておりませんが、もし、受けるのであればということで、検討させていただいております。今回、コロナ陽性患者を受け入れるにあたりまして、4階東病棟を南北に分けて、ゾーニングしてはいますが、ひとたび、コロナが発生して、感染症、新型コロナウイルスに備えて増改築工事をするというのもどうかというのもありまして、もし、何らかの対応するならということでございます。当然、大きな費用が必要になります。今すぐに進めるということではありませんけれども、計画というところでございます。一方、国では、医療計画第8次では、5疾病5事業から、5疾病6事業に、6事業目が感染症というようにうたわれるのではないかと考えております。今後、西脇病院についても、感染について、何らかの対応が必要ではないかというところもあり、こういうふうなことを将来に向けて少し書かせていただいております。今すぐ、どう対応するというものではございません。

#### 片山市長：

いつも松尾先生からいろんな御意見をいただいて、ありがとうございます。夢のある話もしながら、現実も見ないといけません。多分、全国の自治体の中で、人口当たり、もしくは市役所の職員当たりでいうと、西脇病院の職員数というのは、比率的には、一番最大くらいの比率になっていると思います。市の規模の割には、大きな市立病院であるということがまず前提にあります。この中で、私も余裕を持ちたいですけれども、バランスシートを見ると、なかなか持ちにくいというところもあります。この部分については、収益の上がるお医者さんに来てい

ただくことが一番大事なところかなと思います。委員長、よろしく願いいたします。感染症のことですが、これも決まったわけではありませんし、西脇病院が自ら手を挙げるわけではありませんし、もし、県の御指導をいただきながら、そういう方向になったとしたら、改築するお金とか、その部分を国や県からいただかなければ、できないと思います。本当に厳しい財政状況の中でやっています。

#### 飯島委員長：

感染症に関して、SARS、MERS、新型インフル、今回のCOVID-19と、定期的に出てきていますので、今後も出てくるだろうと思います。国が指定したのは正しいと思いますし、兵庫県もそれに対して、しっかりと対策を取らなければいけないし、そこも考えた上で、西脇病院も今後の方針を、やはり10年先を考えていかなければいけないんじゃないかと、個人的には思っています。後は、働き方改革は、やはり目の前にありますので、これはやらざるを得ないというところがあります。ここは何とか対応をしっかりと記載していただけたらと思います。

#### 岩井院長：

追加になりますけれども、確かに当院は西脇市の規模の割には大きいということはあるんですけども、患者さんの所在地、どこの方かということを見た時に、外来も入院もかなり西脇市以外の方もたくさんおられて、そういう方も頼りにしてくれているというところがあると。しかし、なかなか統合とかするわけにもいかないし、そういう他の市の方も診させていただくという部分でのこのくらいの大きさというのが、今はいいのかなと思っています。これから先、例えば、がんに関する緩和とかありますけれども、かなりハード面でいろいろ必要になってきます。やはり、高齢者、まだまだ、これから10年は高齢の方、70歳以上の方の数というのはあまり変わらないだろうと。若い人は段々減っていくというふうになっていくと、そういう方の受け皿としての病院のあり方も考えないといけないと思います。疾患も偏ってくるかもしれませんが、対応していくのが一つの焦点になって、お年寄りでも元気なお年寄りを、市の方でも市役所が新しくなり、そこでもいろいろ高齢の方を元気にしていこうという思いも持っていますので、それをサポートして支えていくという立場の病院のあり方もあるのではないかと、いうふうに思います。急性期は当然、お年寄りでも急性期で来



られて元気にしなければならない人はいっぱいおられるわけで、そういう意味でもやっていかないといけないと思っています。

**飯島委員長：**

予防医学というのは、あまり日本では保険でペイされないもので、なかなか難しいんでしょうけれども、多分、今後の医療というのは、予防医学という方向に向いていくと思います。ここで話すべきはどうかわかりませんが、そういうところも少し頭に置いて、経営をやっていかないといけないのかなと思っています。

他にございませんか。

国の対策がかなり大きく影響してくるのは事実ですので、各委員からいただいた御意見を参考にさせていただいた上で、今後の国の動向を見ながら、国の改革プランがどんなものが出てくるのかわかりませんが、その後には、そのプランの内容を踏まえて、計画の見直しをさらに行っていただく必要があるかなと思います。

いろんな御意見が出ました。それを踏まえて、いろいろ考えていただきたいと思います。

特に、他に御意見等がなければ、これで、今回の議事を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

**5 閉 会**

**藤井事務局次長：**

飯島委員長、ありがとうございました。

本日の第2回委員会におきまして、委員の皆様には貴重な御意見、御指導をいただきましたこと、誠にありがとうございました。

本日の御指導を踏まえながら、経営の健全化、安定した経営の実現に向け、努力してまいります。

以上、委員におかれましては、今後とも御指導、御助言のほど、よろしくお願い申し上げます、令和2年度第2回経営評価委員会を閉会させていただきます。

次回の委員会は、令和3年8月から9月頃に予定しております。後日、改めて日程調整等をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。

◎ 出席委員（5名）

委員長	飯島 一誠	神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野教授
委員	松尾 貴巳	神戸大学大学院経営学研究科教授
委員	村上 典正	西脇市多可郡医師会長
委員	富永なおみ	西脇小児医療を守る会代表
委員	長江 利幸	加東健康福祉事務所長

◎ 出席職員（22名）

片山 象三	市長
岩井 正秀	病院長
片山 重則	副院長
伊藤 卓資	副院長
小林 孝代	副院長兼看護局長
澤 秀樹	病院長補佐
小林 宗仁	薬剤部長
火原 宏幸	放射線部長
市橋 里美	検査部技師長
鵜鷹 正敏	リハビリテーション部技師長
藤本 英亮	臨床工学部技師長
岸本 敦子	看護局次長
蛭田ちあき	看護局次長
守澤 さゆり	看護局次長
坂田 みどり	看護局次長
長井 健	事務局長
藤井 敬也	事務局次長兼管理課長
宇野 憲一	医事課長
村上 昌隆	管理課課長補佐
村上 千登世	管理課課長補佐
吉野 千恵子	管理課課長補佐
矢上 礼子	医事課課長補佐

◎ 傍聴人（2名）